
奥サマは浮幽霊！？

しゃおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奥サマは浮幽霊！？

【Nコード】

N0333W

【作者名】

しゃおん

【あらすじ】

私、シユリア・ヴィントンは、全国民が憧れているといっても過言ではない第一騎士団の総長サマの妻だったのですが、気づいたら死んでしまっていました。ちょ、ちょっと待ってください。まだ彼の残した約束の意味も思い出せないし、十分に妻としての役目を果たした覚えはありません！
あ、でも彼から見ればお荷物が消えて少しは楽になったのかな？

自意識過剰な奥サマが浮幽霊になりながら人の身体の中に入り込ん

だり、モノを動かす技術を身につけたりしながら、夫を見守るお話
です。

奥サマ、感傷に浸る。(前書き)

突然の思いつきです。
矛盾するかも・・・。

奥サマ、感傷に浸る。

みなさん、どうも初めまして。

私の名前はシュリア・ヴィントンでございます。^{わたくし}

幼いころから病弱でありまして、外で遊んでは熱を出すの繰り返しで、

小さいころからいろんな方々に迷惑ばかりかけていました。

私、恐れ多いことに姓をもらっておりますが、

元はただの貧弱な価値のない農民でありまして、
な、何故か偉大なる騎士様、

それも全国民が憧れているといっても過言ではない第一騎士団の総
長様!!!

に不思議なことに、ええ、本当に不思議なことに、
見初められ、総長様の妻となったのでございます。

まあ、見初められたのは彼がまだ、ただの流れ者だった時のこと
ですけどね。

(未だに私の中では謎です。ええ、『シュリアの七不思議』[！]に
入るほどに。)

彼は遠方から、私の住んでいた村に来たのですが、その時から異彩
を放っております。

こんな田舎には合わない整った顔立ち、並外れた剣の腕。

当然、当時から村の娘からはモテモテモテだったのですが、
いつもむすつとしており、常に相手を近づかせないオーラを放って
いられましたね。

そのため、彼の隣に人がいるところを見たことがなかったのですが、いつだったかすこぶる体調が良かったときに私の憩いの場である、村の外れの泉で休んでいる時に彼がやってきて、何と私に話しかけたのです。

あまり、というか人に話しかけている姿を見たことがなかったので、そりゃあびっくりしましたよ。

びっくりしすぎて何を話したかは忘れましたが、彼にとって私は珍獣のように見えたのでしよう。

今まで見たことのない笑顔をたくさん拝見いたしました。

それはそれはイイ笑顔でしたね。あんなイイ笑顔、初めて見ました。まるで面白いオモチャをみつけたときの子供のように目がキラキラしていて。

後からこのことをベッドの中から話したのですが、彼は大笑いしてから、違うよ。と一言私に言ったのです。

意味が分かりかねたのですが、それからの話によると、
どうやら遠い遠い昔、

私はまだ7つになるかならないかのときに、彼とは泉で会ったことがあるそうです。

そういえばまだ小さい頃、調子のよいときは泉まで出向いて遊んでいた記憶があります。

いつもは一人でしたが一時期だけ小さな男の子がいたことを思い出しました。

かれは小さくていつも泣いている弱虫さんでした。

私は末っ子でしたので、突然かわいい弟が出来たようで、とても嬉しいような恥ずかしいような。

一緒に遊んだのは5日間ほどでしたが、確かに私の中では心に残る5日間だったことを覚えています。

確かに男の子には会いましたが、彼とは似ても似つかないのです。男の子は綺麗な顔立ちをしていましたが、無愛想ではなかったし、強くもありませんでした。

だから、びっくりして、本当かどうか聞き返したほどです。

すると彼は笑って、君との約束を守るために強くなったんだよ。

と意味深な言葉を残して、私にキスして、3秒ほど私を抱きしめて、「愛しているよ」という言葉とともに米神にもう一度キスをして、私を抱きしめながら眠りについたのです。

あらら、自己紹介のつもりが思い出話になってしまいましたね。申し訳ありません。

ですが、私にだって感傷に浸りたいときくらいあるのです。

だって。

だって、もう彼には触れることすらできないのですから。

約束の意味も分からないまま、私は天国へと旅立ってしまったのですから。

奥サマ、感傷に浸る。(後書き)

うわ、シリアスう

文章下手

自己嫌悪しか浮かばないです。

こ、これから頑張るんだからね！

作者的にはコメディで頑張りたいので、よろしくお願いします。

シユリアちゃんは天然です。

優しいですがきちんとした意志を持った子なのです。

まあ、かなり自分のこと過小評価しますが。

奥サマ、自分の墓に嫉妬する（前書き）

たくさんのお気に入りありがとうございます！

まさかこんなにお気に入りしてくださる方がいらっしやるとは・・・
嬉しい誤算です！

奥サマ、自分の墓に嫉妬する

私が死んだのは、もうかれこれ5年も前のことです。

30の時に死にましたから、今生きていたら35になっていました。おばさん・・・いや、全然違います！まだまだです！女は30からなんです！

・・・さて、おばさんがどうのこうのの話は置いて。

彼とは私が17、彼が15のときに出会い、

それから私が30になるまで一緒にいたのですが、今考えると、私ってつくづく面倒な女ですね。

今でいう姉さん女房というヤツですが、まったくもって大人になってから彼に年上らしいことなんてしちゃいません。

体が弱いせいで、ほとんどベッドの中で生活してました。むしろ彼に養ってもらっているばかりでした。

せめて彼に食事だけは。

と思いご飯は欠かさず作ってきたのですが、死んでから浮遊霊となって彼を見守っていたある日、
なななななんと！

彼が美味しそうな料理をつくっているじゃありませんか！私ができるのなんかよりも出来栄えがよくて美味しそうです。

パリーン、ガシヤガシヤガシヤ

私の中で何かが砕け散る音がしました。

彼にとって私はお荷物でしかなかったんじゃないか。

ただの金食い虫だったんじゃないか。

年増なおばさんのせいで彼に迷惑ばかりかけていたんじゃないか。

考えてみれば彼にとってプラスのことなんてひとつもありません。あしません。

すべてマイナスです。

ハア

私って死んで正解だったのかも。

お蔭で彼はこんな年増の世話をしなくて済むし、

お金も（まあ、彼は結構もらってますけどね）浮きます。

プラスばっかじゃないですか！

でも、死んでも彼には迷惑をかけている気がしなくもなかったり。

彼は毎日私のお墓によってくれるのです。

生前、私たちが都に引越してから、

調子が良いときにはよく行った都全体が見渡せる丘に作られた、こじんまりとしたお墓です。

仕事に行く前と、終わった後、

彼はここに必ず寄って毎日私の好きだったヒナゲシの花を供えてくれるのです。

私としてはすごくすごく嬉しいのですが、毎日行かなくても……。彼はとっても忙しいのに。

どんなに忙しくても彼はお墓によって、墓石を撫でてから家に帰ったり、お勤めに向かったり。

もう死んだのに、まるで墓石に向かって生きている人に話すように話すのです。

その様子を外から見ることはできませんが、彼と目が合ったことは一度もありません。

最近、墓石に嫉妬してます。

ちよつと、カイ！そこに私はいないよ！

と言えたらどんなに良かったか。

この間墓石に入ろうとしたら、すり抜けてしまいました。

話しても伝わらない。

彼に触つてもすり抜けてしまう。

これは私をすごく切ない気持ちにさせてくれます。

まるで自分が一人のよう。

他にも浮幽霊はいますが、人見知りのせいで話しかけられません。

でも、彼を見ると確かに切なくはなりますが、同時に暖かい気持ちになるのです。

今も、彼は丘にたったお墓に話しかけています。

その顔はどこか寂しそうで。

この顔を私がさせているのだと思うと、胸が締め付けられます。

ああ、この手で彼に触れたらいいのに。

もう一度温もりを確かめられたらいいのに。

「君、どうしたの？」

「あっ、誰かが私に話しかけたのが分かりました。」

奥サマ、自分の墓に嫉妬する（後書き）

結局シリアスになっちまったあああorz
だめです。シュリアちゃんて書くとうしてもシリアスになる・・・
。

もっと直感で書けるキャラが欲しいです。
てことで、ちよっと新キャラフラグを立ててみました。
新キャラよ。頼むよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0333w/>

奥サマは浮幽霊！？

2011年8月31日02時43分発行